



# 八東のひろは

～八東公民館報 第30号～

発行：松江市八東公民館運営協議会 〒690-1404 松江市八東町波入2060 Tel(0852)76-3663 Fax(0852)76-3669

YouTube  
チャンネル  
「結び農縁」  
配信中



菜の花畑



雲州人参畑



男性アイドルグループ セブンオーダー (7order)  
左端 萩谷 慧悟 右端 安井謙太郎



株式会社 TSK 農縁  
代表取締役社長 清田 睦人

八東町を盛り上げるため  
頑張ります！

八東町の皆様、はじめまして。  
今日は紙面をお借りしまして、私たち「株式会社 TSK 農縁」がどんな会社かについてと、ここ八東町で何をやっているか、について紹介いたします。

まずは、日ごろからお世話になっております町内の皆様に心から感謝を申し上げます。また、当社のごを存じでない皆様には、この機会に知っていただけましたら幸いです。

当社は、今年4月に設立したばかりの TSK さんいん中央テレビグループの農業法人ですが、実際には別の法人格で昨年1月から八東町で農業を始めました。

テレビ局が何で農業をするの？と思われるでしょうが、農業はとても重要な産業であると考えており、全国的に農業離れが進みつつあるなか、農地の有効活用や耕作放棄地の再生、そして農業の担い手を増やしていくことによって、人と地域社会をつなぎ、地域を盛り上げていきたいと考え農業を始めました。

現在は、町内の農地をお借りして、由志園アグリファーム様をはじめ、JAくまびき様や地元の皆様のご支援のもと、雲州人参、かぼちゃ、レタス、そば、ジャガイモなどを栽培しており、今後、牡丹の栽培にも取り組みます。

そして、TSKさんいん中央テレビでは、セブンオーダー (7order) という男性アイドルグループの2名を起用した「結び農縁」という番組を制作しています。ここ八東町を舞台に、彼らが実際に農業をやってみて、農業の大切さや八東町の魅力を感じながら、町民の皆様との心温まる触れ合いを通じて成長していく番組です。皆様も是非ご覧になって下さい。

最後に八東町以外での事業について少しだけ紹介します。出雲市東神西町で10月から「生きくらげ」の栽培を始めました。また、大社町でも令和7年春に向け、いちごの生産と「観光いちご農園」の開業を目指しています。

TSK 農縁は農業を通じて八東町を盛り上げていきます。どうかご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

池田(司会)・・・戦後間もない昭和25年頃は、約400ヘクタールの農地に、約2100人が農業に従事していたそうです。私の記憶にあるのは昭和30年代の島全体を覆いつくす、緑の桑畑とパッチワークのような雲州人参



〈左から(敬称略)〉吉岡敏弘、吉岡郁夫、渡部文明、渡部卓也、岩田政彦、池田均

渡部(文)・・・今年の7月に市農業委員の改選が行われ、農業委員19名が市長から3年間の任期で



渡部 文明さん (渡入)

市農業委員会の活動

畑です。高校生の時(手押しの耕運機しかない時代)当時の先生が、お前は大根島か、大根島はいつ行っても畑に草が一本も生えたらん、お百姓さんが畑を大切にしている証だぞ。と言った言葉が誇らしく記憶に残っています。まず初めに、市農業委員会の皆様方に日頃の活動等についてお聞きします。

吉岡(敏)・・・先ほど、吉岡郁夫さんから話がありましたように、7月に「農地利用最適化推進委員」を委嘱されましたので

「市農業委員」に任命されました。主な活動内容は、農地の権利移動の許可等の合議体としての意思決定や、市農地利用最適化推進委員と連携しての現場活動等です。

吉岡(郁)・・・私と吉岡敏弘さんの2人は、7月の総会において3年間の任期で「市農地利用最適化推進委員」を委嘱されました。主な活動内容は、担当地区における農地利用の集積・集約化に向けた農地の出し手・受け手へのアプローチ、遊休農地の発生防止・解消の推進や、地域の農業者等との話し合いの推進等、農業委員と連携した現場活動になります。



大塚山周辺の牡丹畑と雲州人参畑等 (2000年3月撮影)

ろしくお願ひします。大根島の農地については、以前の大根島を思い出すと、整然と規則正しく並んだ屋根が特徴の雲州人参畑、その間には牡丹畑と青々とした季節の野菜、何処を見渡してもキチンと手入

特集  
第18回  
座談会

『儲かる農業を目指して』

大根島は、明治以降肥沃な農地を活用し、養蚕業、雲州人参栽培、牡丹苗木栽培などの特産作物を生産してきました。しかしながら、近年農業従事者の減少とともに、耕作放棄地が増加し、農業収益は減少しています。本日は、農業者であり市農業委員、市農地利用最適化推進委員の皆様方や、町内で営農されている農業生産法人役員の皆様にお集まりいただき、魅力のある儲かる農業について対談しました。

〈座談会 メンバー〉

- ① 市農業委員 渡部 文明(渡入)
- ② 市農地利用最適化推進委員 吉岡 郁夫(遅江)
- ③ 市農地利用最適化推進委員 吉岡 敏弘(入江)
- ④ 由志園アグリファーム(株) 専務取締役 渡部 卓也(馬渡)
- ⑤ ㈱TSK農縁 取締役営農事業部長 岩田 政彦(事務所・二子)
- ⑥ 市八束公民館 館長 池田 均(遅江)

### 地域農業の将来に関するアンケート結果

#### ① 調査の概要

- (1) 実施期間／令和元年  
11月8日から  
12月25日

---

- (2) 実施方法／水稻生産実施計画  
書を提出しておら  
れる農業者の皆様  
に郵送法により実  
施しました。

---

- (3) 調査票送付部数／5,757部

---

- (4) 集 落 数／407集落

---

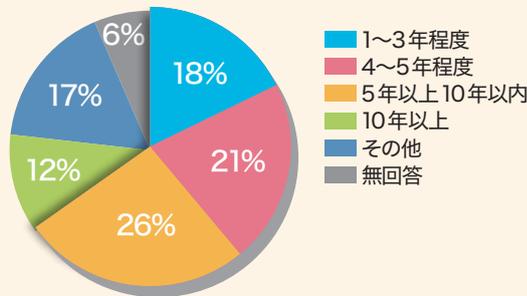
- (5) 有 効 回 答 数／1,906部

---

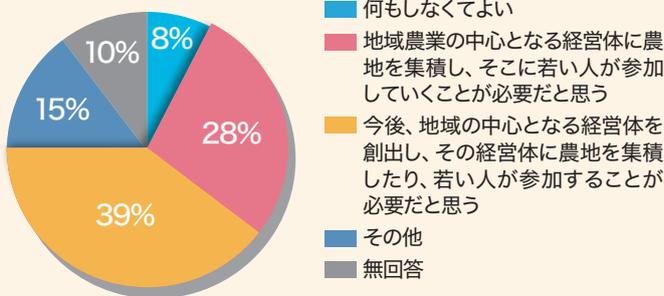
- (6) 有 効 回 答 率／33.1%

#### ② アンケート結果の概要 (回答者数 /1,906名)

今後の経営の継続について



自身の集落・地域内の農業を持続可能なものにするために必要なこと



資料：松江市農業委員会だより「あさつゆ」第41号 (令和2年11月発行)

れされ、雑草は殆んど見られ  
ませんでした。ところが最近  
は、耕作放棄地が彼方こちら  
にみられるようになりました。

渡部(文)・・・松江市が地域農業の将  
来に関するアンケート調査(令  
和元年)を行っています。内容  
は、「今後も農業を継続するか



吉岡 敏弘さん  
(入江)

#### 農地・農業の現状

池田(司会)・・・次に、大根島の農地・  
農業の現状、並びに営農につい  
てお聞かせください。

否か」です。今後3年程度継続  
するが18%、5年程度が21%、  
10年程度が26%でした。合計す  
ると令和元年から10年以内に  
65%の農業者がリタイアすると  
読み取れます。また、自身の集  
落・地域内の農業を持続可能な  
ものにするために必要なことは、  
の問いに対し、28%の方が、「地  
域農業の中心となる経営体に農  
地を集積し、そこに若い人が参  
加することが必要だと思う。」  
また、39%の方が「今後、地域  
の中心となる経営体を創出し、  
その経営体に農地を集積し、若  
い人が参加することが必要だと思  
う。」と回答しています。今  
後の地域農業については、67%  
が農業の法人化が必要と読み取  
れます。

吉岡(敏)・・・現在の主な就農者は、  
ほとんどが中高年以上の年齢で、  
若手の就農者は僅かです。先ほ  
ど、渡部文明農業委員から松江  
市の近い将来の担い手不足の話  
がありました。地元でも新規  
の就農者が見当たらない状況で  
す。また、大根島の場合、農地  
の基盤整備・集約化も難しい状  
況です。水田のような平坦な農  
地も少なく、降雨による表土流  
出が予想され、基盤整備が困難  
な畑地が多くあります。隣接し  
た畑地であっても土壌の性質に  
大きな相違があり、集約化も地  
権者の理解を得るのが難しい状  
況です。そのような中で農地を  
守って頑張っているグループが  
ありますので紹介します。

- グループ名
- ①大根島牡丹協議会  
耕作面積 約44ヘクタール
- ②農業保全会での農地  
維持管理  
耕作面積 約86ヘクタール
- ③農業保全会での環境保全  
活動  
耕作面積 約35ヘクタール
- ④大根島そば生産組合  
耕作面積 約40ヘクタール

(次項に続く)

肥沃な農地での営農



渡部 卓也さん (馬渡)

渡部(卓)：農業生産者が多くおられる時代なら、牡丹苗木も雲州人參も農家から買い付けすれば、農家の方も喜ばれます。しかし農業生産者が少なくなると、八束町が産地ではなくなるとい

う危機感がありました。しかしながら、農業生産法人として農業に従事してみると、農産物の低価格に驚かされ、経験不足から出荷できない農産物も大量に作ったこともありました。また、役員、正社員は農業経験のない素人ばかりでしたが、耕作放棄地を借り受けながら農業経験者(篤農家)と一緒になって取り組み、今では若い機動力のある未経験社員とが融合した会社になりました。

経営面積：41.8ヘクタール  
作付面積：そば 16ヘクタール

(裏作：菜種9ヘクタール)

牡丹 10ヘクタール

施設牡丹(温度管理)

0.5ヘクタール  
雲州人參 2ヘクタール  
春ジャガイモ 2.5ヘクタール

秋ジャガイモ 1ヘクタール  
レタス 0.8ヘクタール  
従業員：32名(役員5名、

正社員6名、準社員2名、パート11名、業務委託8名)



由志園の施設牡丹(温度管理)栽培

岩田：弊社は、令和4年より大根島

で営農をスタートしました。八束町の皆様よろしくお願ひします。大根島の美しい風景、野菜の美味しさ、優しく温かい空気感は長年住んでいらつしやる方には当たり前のことかもしれませんが、私自身毎日新しい発見と感動を受けています。雲州人參や牡丹の栽培については、年代ごとの栽培工程の多さ、高度

な技術習得の必須と、栽培に取り組めば取り組むほど、一朝一夕にはできないことを身に染みて感じていきます。まずは、大根島で以前から伝承されている栽培方法を、地域の農業者の方からご教授いただき実践することが、喫緊の課題であり目標です。



吉岡 郁夫さん (遅江)

吉岡(郁)：私は、はまぼうふうと

ニンニクを作付けしていますが、別の野菜も作ってみたいと考えています。農地に関しては、八束地区農業保全会(会員18名)で、約86ヘクタールの農地を保全していますが、今後は会員も減少すると思いますので、法人の会員に力になっていただきたいと思います。なお、市農業委員会、新規就農者に対し資金面、農家とのマッチング等の対策を行っていますので、私達3人の委員に、ご相談いただきましたと思います。

渡部(文)：私は、牡丹とそばを作っています。そばを作り始めたの

は、牡丹苗を作っている周辺でアワダチ草の繁茂が多くなり、保全管理のためにそばの作付面積が徐々に増えました。私は妻と毎日農業に従事していますが、日頃からJAの牡丹販売の努力を見ており感謝しています。そうした状況の中、一例を話します。牡丹苗は1年生として出荷するのにシヤクヤクの種を播いてから3年がかかります。しかしながら、1本当たりの販売単価は200円台です。この価格では牡丹栽培をしようという担い手は育たないのが現状です。そのためここ数年、牡丹栽培農家が急激に減少しています。今、島根のブランド品が一つ消えそうな状況にあります。

吉岡(敏)：私は、そば500アール、

かぼちゃ40アール、はまぼうふう10アール、ニンニク5アールを作付けしていますが、現状の個人経営体では労働力の確保が難しく、収益の向上に繋がりません。渡部さんの話にもありますが、今後も農業を継続するならば、以下の対策が必要です。まず、①グループで助け合いによる労働力の確保と、営農組合、又は法人化による労働力の確保。②高収益作物(かぼちゃ、レタ



T S K農縁の営農風景

ス、はまぼうふう等)の栽培と大根島の特産物の復活。③農地の集約化による作業の効率化と、雲州人参、牡丹栽培における作業の分業化による生産効率の向上等。④積極的に農地を無償提供する。以上の4点が、健全経営を行っていくために必要な対策と考えます。

**渡部 (卓)**…今後、牡丹と雲州人参の生産に携わろうとする新規就農者(法人含む)は、まず現在経営している農家、または農業生産法人等の組織団体で実務経験を積み、栽培技術の習得だけでなく、農地の良し悪しの見分け方(土地の利用履歴)など、大根島の地域特性の把握を行う必要があると思います。そして、毎年投資が続く大量の在庫とし



岩田 政彦さん (事務所・二子)

てストックされる生産物のポリュームについても十分に検討する必要がありますと思います。

**岩田**…大根島での営農面積は、そば・

菜の花200アール、レタス40アール、かぼちゃ30アール、その他の野菜30アール、雲州人参5アール、牡丹は今年度から開始します。令和4年より、八束町内生産者との共同作付けも行っています。現在、農業従事者1名(岩田)と、非常勤4名(八束町在住農業者)で運営し、由志園アグリファームと業務提携しています。また、雲州人参協議会と牡丹協議会、また環境保全型農業の会にも入会させていただいています。弊社を受け入れていただいた寛容な八束町の皆様との、人と人との繋がりを持てたことが、現時点での一番の成果だと感じています。

**池田 (司会)**…本日は、八束町の農地・

農業について、市の農業委員、農地利用最適化推進委員の皆

様、そして本町で農業生産法人として農業に携わり頑張っていたらっしゃる皆様との座談会を企画しました。この対談内容が農業に関心のある方の指針になれば幸いです。最後になりますが、昨年1月から大根島で営農をスタートされた、(株)T S K農縁の岩田政彦 営農事業部長さんに、大根島での特徴的な取り組みについてのお話しをお願いします。

**マスメディアで情報発信**

**岩田**…先ほども話しましたが、大根島の美しい風景や温かい空気感をより多くの方々に、年代、地域を問わず「共感」して頂く方法の一つとして、グループ会社のT S Kさんいん中央テレビと共同で、週一度のYou Tube 発信と、四半期毎の地上波放



池田 均 (遅江)

送を行っています。番組の中では、大根島の良いところばかりではなく、地方共通の課題でもある農業の担い手不足、耕作放棄地問題にも焦点を当て、また故郷を次世代に繋いでいこうとされる様々な取り組みを取り上げさせていただき、今後も継続して発信する計画です。

**池田 (司会)**…本文の2ページに、「大

塚山周辺の牡丹畑と雲州人参畑等」の写真があります。この写真は、23年前の2000年春に撮影されたものです。冒頭、吉岡敏弘さんが話された、「何処を見渡してもキチンと手入れされた大根島の畑」を表す一枚の写真です。今はどうでしょう。残念ながら21世紀になってから僅か23年で一変しました。先人から受け継いだ「肥沃な農地」を、皆さんの知恵で再生したいですね。本日は、お忙しい中、

ありがとうございます。



テレビ放映の様様

# 中村元博士が残した『慈しみあふれる言葉』を紹介します⑫

松江市出身でインド哲学・仏教学の世界的権威、中村元博士が残した慈しみあふれる言葉を、八束町中央の「八束複合施設」正面玄関東横にある掲示板で毎月紹介します。掲示内容は「中村博士自身が述べた言葉」の中から、中村元記念館の加藤千乃学芸員が選び、公民館で書道を学ぶ「中央書道サークル(橘淳子代表)」のメンバーが中心となって毛筆でしたためます。



〈左から〉藤井教公 中村元記念館館長 北海道大学名誉教授  
積 悟 中村元記念館東洋思想文化研究所副所長  
スリランカ国立ペーラデニヤ大学客員研究員

中村元のことば  
**不求自得**

令和五年十一月掲示

【出典・解説】  
中村元博士が法華經の教えを紹介する中で述べた言葉。「...ここでは、われわれは気づかないけれども、たいせつな宝を与えられているのだ、ということを書いてあります。われわれにとつて、もつともたいせつな〈生命〉は、みずから求めて得たものではありません。求めないのに与えられたのです。われわれの所有する品物も、けつめよく求めないに手に入ったものではないでしょうか。それに気づけば、おのずから感謝の気持ちが湧き出てくるでしょう。」  
(中村元『大乘仏典Ⅱ法華經』より。)

中村元のことば  
**自己に打ち克つ**

令和五年十月掲示

【出典・解説】  
「ほうつておけば、人間というものは、勝手なことをする。だから反省して、ととのえる、制することが必要なのである。『己れに打ち克つて正しい生き方をする』というこの精神は、たんに個人個人についての問題ではなくて、現代では利益団体と他の利益団体、国家と国家との相克について、とくに要請されるべきであろう。とくに、強国の国家権力が自己に打ち克ち理法に従うということがなければ、人類は破壊するのみである...」  
(中村元『構造倫理講座Ⅱ〈生きる道〉の倫理』より。)

中村元のことば  
**知恩**

令和五年九月掲示

【出典・解説】  
中村元博士が恩返しについて述べた言葉。「父母の恩は、われわれのものごとろつく以前から受けているわけです。われわれはそれに気づかないけれど、しかし『恩を知る』という心がけが大切です。『知恩』という語が仏典に出きます。京都の知恩院の『知恩』です。それは『人からなされたことを知る』というものと意味です。そこから知恩の念が起きてきます...」  
(中村元『仏典のことば―現代に呼びかける知恵』より。)

中村元のことば  
**三輪清浄**

令和四年八月掲示

【出典・解説】  
中村元博士が生きている心がまえについて述べた中の言葉。「...人に何かを与える時には『三輪清浄』ということが必要になります。つまり、施す主体と施される相手と、その間に渡されるものと、その三つが清らかでなければなりません。『俺があいつにこういふことをしてやったのだ』というふうな、そういう思いがある時は、『俺』と『あいつ』と『こういふこと』という三つがどことおこっているわけです。そうではなくて、そういうことを忘れた清らかな気持ちで人々に物を与え奉仕すること、これがありがたいことだということです。」  
(中村元『原始仏典Ⅱ人生の指針』より。)

## あとがき

### 大根島⑫ 「肥沃な農地」

昭和25年頃は、約400ヘクタールの農地に約2100人が就業。明治以降、この肥沃な農地を活用し、種々の特産作物を生産。①養蚕業は、明治5年頃松江藩が実生桑苗を配布し栽培を奨励。明治23年、寺津地区に養蚕伝習所が開設されるなど、昭和30年頃まで、県下でも有数の繭生産地となる。一方、②雲州人参栽培は、江戸末期の天保時代、松江藩の直轄畑として栽培させたのが最初。昭和35年頃から、生糸価格の暴落等により、養蚕業は衰退し、相前後して取引価格の良い雲州人参栽培農家が増加。③牡丹苗木栽培は、昭和30年代から平成初期にかけて、接ぎ木や低温技術開発等により、採算に合わなくなつた雲州人参に代わる特産作物として現在に至っているが、肥沃な農地の現状は...  
『どうする大根島』。(池)